

2018年度チャイルドルーム実施報告

1 目的

・大会期間中に乳幼児を帯同して大会に参加する選手や役員、大会関係者や観覧者のために、環境を整え便宜を図る。

2 使用目的

・乳幼児の食事及び授乳・乳幼児の着替え、おむつ替え・乳幼児の休憩、仮眠

3 本年度実施報告

大会・場所	期 間	延べ利用者数
全日本470 江の島ヨットハーバー	8月20日(月)～ 8月26日(日)	24人
ワールドカップ江の島 江の島ヨットハーバー	9月9日(日)～ 9月16日(土)	51人
江の島オリンピックウィーク 江の島ヨットハーバー	9月21日(金)～ 9月24日(日)	29人
福井国体 若狭和田マリーナ	9月29日(土)～ 10月3日(水)	26人 (3日間)
茨城リハ国体 阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場	10月25日(木)～ 10月28日(日)	21人

- ・ワールドカップではフランス・イギリス・ポーランドのお子さんもお預かりした。今後は、国際大会時には、受付と保育士共に英語の堪能なスタッフを加えることを目標にしたい。
- ・ワールドカップでのチャイルドルームの場所が狭かったので、来年度はもう少し広い場所を確保していただけるよう実行委員会に要請していきたい。
- ・福井国体では台風の影響で、3日間の開設となったが、昨年よりもママさんセーラーが増えた。
- ・福井国体では新聞社に取材要請をし、2社で記事に掲載された。
- ・ワールドカップでは、時事通信に吉田愛さんの記事の中で取り上げていただいた。

20年東京五輪テスト大会を兼ね
て、ワールドカップ(W杯)江の島大会
で、選手や関係者の子供を預かるチャイルドルーム
(託児室)が設置された。8日間で4カ国の延べ51
人が利用するなど盛況だった。

女子470級の吉田愛(ベネッセ)は1歳の琉良ちゃんを連日預けた。夫の雄悟さんはチームでコーチを務める「共働き」。「子供を連れて会場に行けて、安心して大会に臨める」と感謝する。1歳のジャディックちゃんを連れてきたのは、08年北京五輪女子RSX級銅メダリストのブライオニー・ショー(英国)。「違う言葉や文化の子供たちと接する良い機会でもある」と意義を語った。

日本セーリング連盟は02年から、国民体育大会などで託児室の取り組みを続けてきた。W杯でも連盟がベビーベッドなど備品を用意し、保険にも加入。保育士はボランティア団体に依頼した。



セーリングの2017年ワールドカップ愛知・蒲郡大会で琉良ちゃんを抱いて表彰台上に立つ女子470級の吉田愛(左端)。17年に出産して競技に復帰した(本人提供)

託児室、東京五輪テスト大会で盛況＝吉田「安心して臨める」-セーリング

連盟の富田三和子レディース委員長は「セーリングは生涯スポーツ。女性は結婚や出産、育児がある。選手も役員も(大会に参加する)ハードルを少しでも低くしてあげたい」と言う。昨年出産して復帰した吉田は「子供を産んでも(競技に)関わっていける安心感はあった」と語った。

東京五輪でも連盟は、会場の江の島ヨットハーバーが近辺での託児室設置を目指す。吉岡美帆とのペアで今年の世界選手権を制した吉田は「五輪でも普段のペースで、子供を預けてレースに行きたい」と歓迎した。(2018/10/31-04:30)